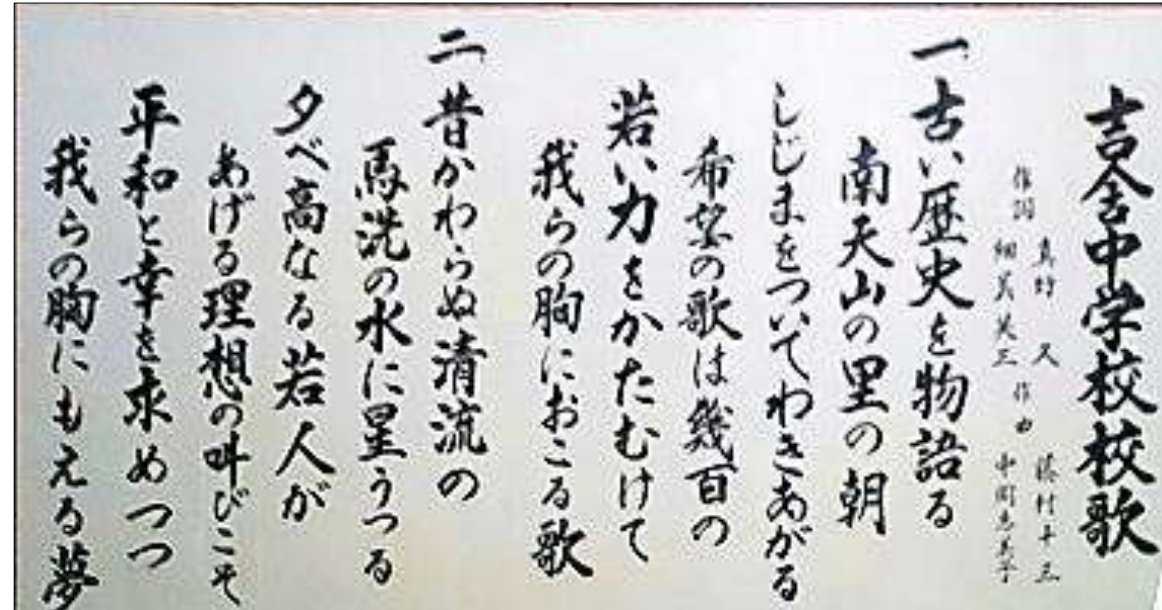


# 校歌への想いかみしめて

令和元年 7月23日(火)  
号 外  
吉舎中学校長 山田 行高

令和元年7月10日(水)6時間目「全校道徳」を行いました。  
校歌制定60年目を迎え、校歌を作られた二人の先生と60年前の生徒4人の方をお招きして、校歌への思いや秘話をお話していただきました。  
そして、その話を基に、「先輩から受け継いで、後輩に伝えていきたいことは何ですか」と縦割り6人班で話し合いをしました。3年生がリーダーシップを発揮し、話の内容をまとめ、全体へ発表してくれました。  
最後は、みんなで校歌を歌いました。



## <校歌作成のなったきっかけは？校歌への作詞者・作曲者の思いは？>

### <作詞された細美先生の話>

当時の校長先生から、昭和34年の10月になって急に校歌を作ってほしいと言われました。11月26日の新校舎落成に合わせてほしいと言われたため、間に合うかどうか不安でした。しかし、校長先生からのお話だったことと、作詞も作曲も二人ずつで作るように言われたので、覚悟を決めて作り始めました。



周りの学校の校歌を参考に、吉舎の自然や子どもたちへの思いや願いを歌詞にしていきました。1番は吉舎中の朝、2番は吉舎中の夜と対比させて歌詞を考えてみました。歌詞の最初の2行は、吉舎らしい情景が目に浮かぶように考えてみました。「とみし山」でなく「南天山」にしたのは、校門から真正面に見える山が「南天山」で、和智氏の山城があった古い歴史を表す場所として歌詞に入れました。

また、校歌には、生徒への思いとして「希望」や「理想」という言葉を入れたいと思っていました。生徒へは、「夢」を持って、吉舎でしっかり学んで、社会に出て活躍する人になってほしいという思いや、平和やみんなの幸せにつながる理想をもって、未来に進んでほしいという願いを歌詞に入れたいと思いました。

学校の校歌の歌詞には、「〇〇学校」という校名が入ることが多いので、吉舎中学校の校歌にも校名を入れるかどうか最後まで迷いましたが、吉舎らしい歌詞になったので、あえて「吉舎中学校」と入れる必要はないと思いました。

### <作曲された中岡先生の話>

作曲に苦労はありませんでした。歌詞を見たときメロディが、あっという間に浮かんでできあがりました。

(ここからは、後日談です。)

「60年前、専門外の音楽を指導するために、オルガンを買ったんじゃけえ。そのオルガンは、ボーナスと1カ月の給料を足しても買えんぐらい高くて、実家からお金を出してもらって、やっところたんよ。(おそらく、そのオルガンで校歌を作られたのだと思います)昨日、大掃除をしようたら、当時の校歌の楽譜が出てきたんよ。よ一見たら、よく作ったなー、自分でも不思議な感じがするよ。楽譜を見て、昔の事を思い出したから電話しました。」と電話をいただきました。

オルガンで作ったとは言われませんでしたでしたが、電話を聞いてた私は、おそらくこのオルガンで作られたのだろうと思いました。



校歌のなかった当時中3だった前田さんからは、「校歌の代わりに当時のアニメ「赤胴鈴之助」の曲を使って学級歌を作っていました。そして、よくみんなで歌っていました。当時の仲間と校歌の話をして、みんな覚えていないと言います。同窓会では、自分たちで作った「学級歌」を歌って、昔の話で盛り上がります。」と話していただきました。



一方、当時中1だった春田さんからは、「小学校も中学校でも校歌がなく、「何故吉舎には校歌がないのか」と思っていました。だから、中1の秋に校歌ができたことを聞いて本当にうれしかったのを覚えています。待望の校歌誕生でした。」と話していただきました。



道徳の時間には、「校歌に込められた思い」を生徒一人一人が考え、その後、吉舎中の歴史や60年前の先生や先輩から「吉舎中誕生」や「校歌誕生」について話を聞きました。

例えば、左の写真は、吉舎中が誕生した時の航空写真です。吉舎中は、且彰館高校の敷地内に小学校と一緒にあったそうです。

「◎今日先輩から話を聞いて、あなたが後輩に伝えていきたいことはなんですか？」 皆で考えました。



話を聞いて考え



発表



話し合い



校歌斉唱

<生徒の感想>

- 校歌の意味、歴史などがよくわかり大切にしたいと思うようになりました。この校歌がずっと歌い続けられたらうれしいです。
- 校歌には吉舎の歴史・自然や吉舎中の生徒に対する願いがたくさん込められているものと分かりました。これからも校歌に込められた思いを受け継ぎ、歌える今を大切にしたいと思いました。
- 吉舎町のシンボル（南天山や馬洗川）についてイメージしたり、ふるさとを大切にしながら歌っていきたいです。また、歌える今を大切にしていきたいです。
- 校歌は、5,000人が歌い続けきたと分かって改めてすごいと思った。1番は朝、2番は夜だという事を初めて知りました。これから吉舎の事を考えながら歌っていきたいと思いました。
- 吉舎中学校の校歌の意味が分かりました。これから後輩に吉舎の歴史を伝えていきたくと思いました。これから、歌詞の意味をちゃんと考えて歌おうとも思いました。
- 5,000人ぐらいの人が校歌を歌ってきた。今の校舎が4代目になる。創立72年目になるなどいろいろなことが知れて良かったです。
- 今日、校歌について、作詞・作曲した時の思いなどを知り、幾百などの意味や秘められている思いを伝えていこうと思いました。班活動では、自分の思いと比べながら、深めることができました。これから、もっと吉舎の事、吉舎中の事を知りたいと思いました。

<中国新聞>

校歌誕生60年で授業

吉舎中 作詞作曲の元教諭が思い

三次市吉舎町の吉舎中で10日、同校の校歌誕生60年を記念した授業があった。校歌を作詞作曲した当時の教諭2人が講師となり、歌に込めた思いなどを1〜3年の生徒73人に伝えた。

吉舎中の校歌は1959年、校舎の建て替えを記念して当時の教諭4人によって初めて作られた。国語教諭だった細美英三さん(88)と三次市三和町は作詞、体育教諭だった中岡恵子さん(88)と同日市東は作曲を担当した。

図書室であったこの日の授業に2人が講師として参加。細美さんは、南天山や馬洗(川)の水といった地域の自然が登場する歌詞について「吉舎中ならではの歌詞にしたかった」と解説した。「希望の歌は幾百の若い力をかたむけて」の詞は「1学年100人を超えていた時代。皆が希望を持って努力してほしいとの願いを込めた」と説明した。のどかな曲調を、中岡さんは「歌詞を見たら自然に浮かんだ」と話した。2人は、落成式の1カ月前に歌づくりを校長から命じられた経緯も紹介した。

同中が郷土愛を育む目的で企画した。2年の升田凌介さん(13)は「校歌に込められた思いを初めて聞いた。歌詞を意識して歌いたくない」と話していた。(八百村耕平)